

「集落営農」を考えてみませんか!!

～あなたの地域の農業経営はだいじょうぶですか?～

今、地域の農業を守り米づくりや麦づくりなどを行っているのは、農家の女性や65歳以上のおとうさんの世代が中心です。

「儲からない」「仕事がきつい」と思いながらも、

「先祖伝来の田んぼを荒らすのは忍びない」と頑張っておられます。

後継者に任せたいと思っても、今のままでは「田んぼを守って欲しい」とも言えず、家族や身近な誰かと相談もできずあきらめようとしていませんか。

しかし、同じ悩みは地域みんながもっています!

一度、**集落のみんなできちんと話し合ってみてはどうでしょうか?**

1. みんな困っている、田んぼの維持管理

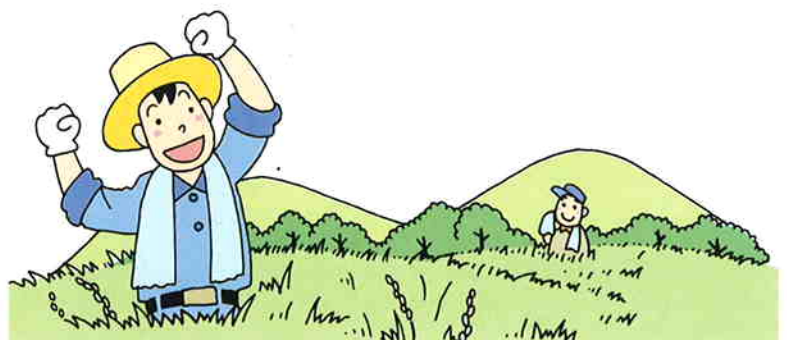
経営主(お父さん)の声	後継者(子供)の声
<ul style="list-style-type: none"> ○とにかく機械代が高すぎる ○今ある機械が故障したら高額な機械を買うことになる ○米は値下げばかりで儲からない ○よそが作業を始めると気ぜわしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○機械が小型で効率が悪い ○農繁期には会社を休まないといけない ○農業は「きつい」「きたない」「危険」で嫌い ○農業のおかげで休日がほとんどつぶれてしまう
女性(お母さん)・子供(孫)たちの声	高齢者(おじいちゃん・おばあちゃん)の声
<ul style="list-style-type: none"> ○年に数日しか使用しないトラクターやコンバインなどの農機具が納屋を占領している ○行楽シーズンが農繁期のため、家族と遊びにいけない ○農繁期になると家の中がもめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰かに田んぼを借りて欲しいが頼む人がいない ○息子は関心がない、手伝ってくれない ○遠くで家を買って暮らしており、年に数回しか家に帰ってこない ○いつまで続けられるか分からない

2. このままでも続けていけますか?

困った問題を抱えながらも農地の維持管理は、おとうさん達の篤農精神に支えられてきました。でも、後継者の世代は違います。経済的に引き合わない稲づくりなどを続けていくにはあまりにも問題が多すぎます。

第一、もしあなたが病気などで倒れたらどうしますか。

農地が荒れることは、生活環境が荒廃していくことになります。今のうちに、若い世代が引き継いでくれる農業のしくみ、集落の農地は集落で守るしくみ「**集落営農**」について、考えてみませんか。



3. 集落営農とは？

集落のみんなの連携と協力のもとで、効率的で合理的な農業のしくみを作ることが集落営農です。稲作などの管理一切を1人(1世帯)でするのではなく、仲間と一緒にサラリーマンでも楽にできる農業のしくみを作るのです。

今まで自由に、自分だけの農業をやってきた世代の方には窮屈かもしれませんが、若い人達には抵抗は少ないのではないのでしょうか。



4. 集落営農のメリット

(1) こんなに違う、農機具コスト

現状で、1haの水田を所有している農家が装備している標準的な機械への投資額を試算してみると、約658万円になります。水稲10アール当たりでは約109万円です。

例えば、集落の水稲15haをまとめて栽培するための機械と施設を装備すると、投資額は、約1,485万円です。10a当たりでは約10万円で済みます。しかも高性能・大型機械ですから快適に作業ができます。

表1 現状の機械投資額(1戸)
(水田1ha、水稲作付け60a抑摸)

農機具名	仕様・能力	投資額(円)
トラクター	21馬力	2,000,000
乗用田植機	乗用4条植	1,200,000
コンバイン	2条刈り	1,800,000
防除機	動噴背負式	80,000
乾燥機	16石	800,000
粃すり機	2.5インチ	300,000
計量選別機	30kg	400,000
合計(1戸あたり)		6,580,000

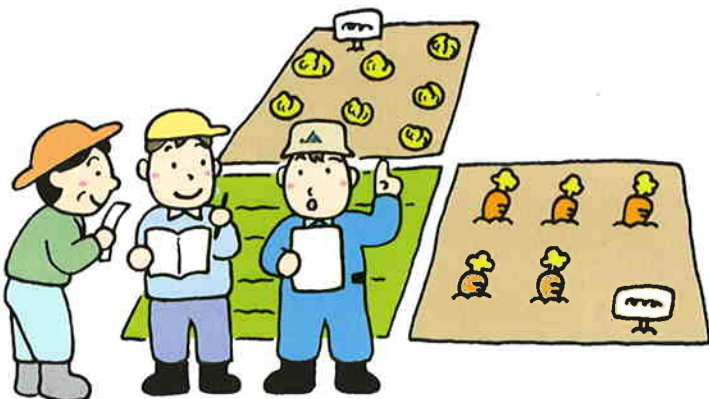
表2 集落営農の機械施設投資額(25戸)
(水田25ha、水稲作付15ha規模)

農機具名	仕様・能力	投資額(円)
トラクター	40馬力	4,000,000
乗用田植機	6条施肥機付	2,000,000
代かきハロー	280mm	450,000
堆肥散布機	2t	500,000
コンバイン	3条グレン付	5,500,000
防除機	動力噴霧機	400,000
格納庫	—	2,000,000
合計		14,850,000
1戸あたり		594,000

注) カントリーエレベーターを使用する

(2) こんな合理化も工夫次第

ほ場の条件に適した作物の栽培が計画的に行うことが可能となり、作物毎に最も高い収益が上がるような農地利用をすることができます。



ほ場からほ場へ連続作業が可能となり、機械の能力を十分に発揮し、短時間に効率的な作業をすることができます。

(3) 集落の人材を生かせる

集落の中には、兼業で身につけたいろんな専門技術や知識を持っている人がいます。こうした人材を集落営農組織の中で効果的に生かすことができます。

オペレーターの育成や機械施設の更新など将来ビジョンを持った経営管理が行われます。

また、作業の分業化により、その人にあった作業分担が可能になり、肉体的にも精神的にも解放され、ゆとりのある生活ができます。



5. ここから考えてみよう!

(1) 農業機械の負担を軽くできる方法を考えてみよう

- 集落で「個人で農業機械を新規購入しない」話し合いをしよう
- 個々が持っている機械の共同利用について考えてみよう
- 自分の機械が故障しても他の人に依頼できるしくみを作ろう
- トラクター、コンバイン、田植機等高性能機械の共同導入を考えてみよう



(2) 集落の10年先を担う人たちと一緒に話し合い、新しい営農の仕組みを作ろう

- 高齢化等でやめざるを得ない人が安心して農地を任せられるように
- 不慮の事故で作業ができなくなった人のために
- 飯米だけは確保したい人のために



(3) 集落の農地をもっと効率的に利用できる方法を考えよう

- どのほ場で何を栽培するか、どんな作物を栽培するかを話し合い、作業効率がよくなる工夫を考えよう

6. 集落営農を進めるときの心構え

ポイント1 目先のことにこだわらずに将来を見つめて

「コンバインを持っているので、いらん!」ではなく「今あるコンバインが使えなくなったら?」というように考えることが大切。自分のことだけ考えたら何もできない。

ポイント2 「何を集落営農の目的にするか」をはっきりさせる

地域によって第1番に困っている問題や目標とする営農の形は様々。みんなで話し合い、どうすれば問題を解決できるか、目標を達成できるか、知恵を出し合い意見の統一を図る。



7. 集落営農を行っている事例

① シックスファーマーズ(高松市)

高松市東植田地区を中心に活動しており、主たる構成員は名前のとおり6名です。

麦類の作業受託を活動の中心として地域の農業を担っており、平成14年播麦類で約23haに取り組みました。

さらに、品質・収量の向上のため、排水対策の強化、適期追肥および共同防除を行い、平均単収450kgとなりました。

今後もメンバーが協力して集落営農の発展に取り組むことにしています。



メンバーそろっての集合写真

② 天王宮農集団(さぬき市)

さぬき市寒川町の天王宮農集団は、平成10年に構成員22名で発足し、水稻のほかに麦15ha、大豆9haを作付けしています。機械の共同利用等により、効率的な水田農業に取り組んでいます。



共同利用機械と格納庫

③ センチピードグラスの実証試験

中山間地域の水田では、畦畔の管理が重労働で、農業者の負担となっています。

普及センターでは、被覆植物として注目されているセンチピードグラス(和名:ムカデシバ)の展示ほを設け、草刈り等の省力化を検討しています。



小麦「さぬきの夢2000」の収穫作業



セルトレイへの播種作業

集落営農についてのお問い合わせは

- 香川県農政水産部農業経営課…………… 高松市番町4丁目1番10号 **087-832-3406**
- 東讃農業改良普及センター…………… さぬき市津田町津田930-2 **0879-42-0190**
- 小豆農業改良普及センター…………… 小豆郡池田町大字池田2519-2 **0879-75-0145**
- 中讃農業改良普及センター…………… 坂出市江尻町1355 **0877-44-6020**
- 西讃農業改良普及センター…………… 三豊郡豊中町笠田竹田438-1 **0875-62-3075**